

## 本市の全国学力・学習状況調査結果概要

平成30年11月

本調査の目的は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析し、その成果を検証して学習指導の改善を図ることなどであり、平成19年度から文部科学省が実施しているものです。今年度の調査は4月17日に悉皆で行われ、本市では、全校にあたる小学校14校（6年生596名）、中学校10校（3年生579名）が参加しました。

調査内容は、国語、算数・数学、理科の3教科で、主として「知識」に関する調査問題Aと、主として「活用」に関する調査問題Bの2種類、小学校と中学校で各6種類ずつ実施されました。なお、理科は3年前と同様にAとBの問題が1冊の調査用紙に出題されています。また、学習習慣や生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、各校の校長が回答する教育環境等に関する学校質問紙調査も実施されました。

本県が引き続き全国トップクラスに位置している中、本市の小・中学校は、国語、算数・数学、理科のいずれも平均正答率で全国を上回っており、市全体としては基礎・基本の定着が図られているといえます。しかし、学校による正答率の開きが見られるという点は引き続き課題であるといえます。付けたい力を明確にした授業づくり、少人数指導等の充実を図るとともに、学び合いの充実をとおして確実な定着が図られ、一人一人の学びがより一層確かなものになるようにしていきたいと考えています。

小学校においては、国語A Bともに、平均正答率が全国を上回っています。特に目的や意図に応じて書く力が徐々に定着してきているといえます。しかし、文中から目的に応じて必要な情報を捉える力などに課題が見られました。算数Aは全国平均正答率を上回っており、基本的な計算の技能は定着しているといえます。算数Bも全国を上回ってはいますが、グラフを読み取ったり、考えたことを記述したりする問題などについては課題を残しました。理科は、基本的な知識は定着していますが、観察・実験の技能や、考察したことなどを記述する力に課題があることが明らかになりました。

中学校においては、国語A Bともに全ての領域で正答率が全国を上回り、相手の反応を踏まえて話すことなどの正答率が高い反面、伝えたい内容が表されているかを検討したり、目的に応じて読み、内容を整理して書くことなどに課題を残しました。数学Aは全国平均正答率を上回っており、小学校と同様に、基本的な計算の技能が身に付いていると言えます。数学Bも全国を上回っているものの、資料等の情報を整理したり必要な情報を選択したりして、的確に処理することなどに課題があります。理科は、観察・実験の技能は概ね身に付いていたものの、基本的な知識の定着に課題を残しました。

質問紙調査からは、小・中とも、家庭学習に計画的に取り組んでいる様子が見え、例年、「地域」に関連した設問において、地域に出る経験はあっても、意識の高まりにつながっていないという課題が見られていましたが、今回の結果からは、地域の出来事に関心をもち、関わっていこうとする意識が育ちつつあることがうかがえます。

平成31年度の調査については、国語、算数・数学に加え、新たに英語を含めた3教科及び児童生徒質問紙について悉皆により実施されます。今後も、確かな学力、豊かな心を育むことができるように、指導の充実が一層期待されています。

### 全国及び秋田県の平均正答率一覧（今年度も、県の平均通過率は整数値で発表されています）

〈小学6年 平均正答率〉

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
秋田県	77	61	67	57	66
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

〈中学3年 平均正答率〉

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
秋田県	80	66	70	51	70
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

## 小学校国語について

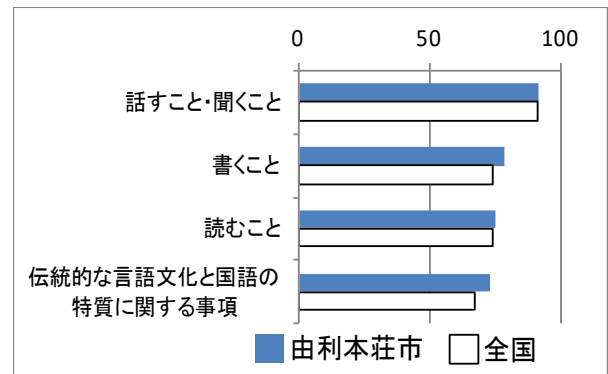
### 国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、3領域1事項とも全国の平均正答率を上回っています。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「主語と述語を適切に照応させて文を正しく書く」が全国より11ポイント程度上回り、読み書き、発表の基本となる日常的な言語能力が定着していることを示しています。「目的に応じて必要な情報を捉えて読む」、「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」については、課題が見られますので、指導を一層充実させることが必要です。

#### 【目的に応じて必要な情報を捉えて読む】

「読むこと」の「必要となる情報を取り出し、それらに関連付けて読むこと」に課題が見られました。自分が必要とする情報を得るために、見出しやキーワード、図表と結び付けて読む「調べ学習」を積み重ねる指導が必要です。図鑑や事典、説明書等を活用して課題解決を図る学習活動を、国語科として意図的・計画的に設定するとともに、他教科等の学習活動に生かしていくことが大切です。

### <小学校 国語A（領域）の正答率>



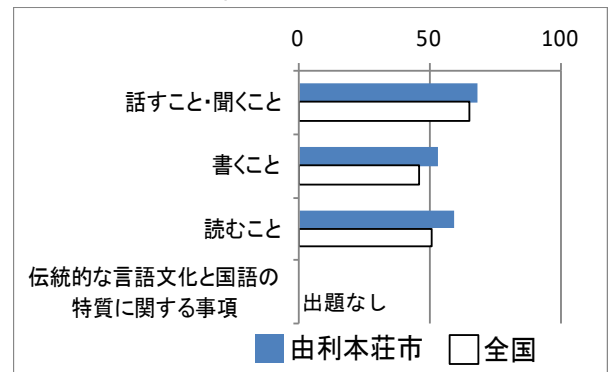
#### 【相手や場面に応じて適切に敬語を使う】

日常よく使われる敬語の使い方について課題が見られました。敬語を適切に使うようにするためには、相手と自分との関係や場の状況など様々な場面で敬語を使う場の設定が重要です。学校行事と関連させながら、地域の大人や目上の人と会話したり、手紙を書く活動を設定したりするなど、公の場における言葉の使い方に対する感覚を養う言語活動の工夫が求められます。

### 国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると、「書くこと」が7ポイント、「読むこと」が8ポイントと、どちらも全国を上回る高い正答率を示しています。また、記述式問題の平均正答率も8ポイント以上全国を上回っているなど、各学年での指導が確実に行われていることが結果として現れています。「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」ことに課題が見られましたので、事実と意見、感想を区別しながら条件に応じて書く場を設定し、定着を図る指導が必要です。

### <小学校 国語B（領域）の正答率>



#### 【目的や意図に応じて明確に詳しく書く】

推薦文を書く場面を設定した「書くこと」の「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」ことは全国的に平均正答率が低く、本市も同様の結果でした。一つのテキストから情報を取り出す学習だけでなく、複数のテキストの中から必要な情報を見付け出すことや、それらに関係付けて整理し、文章を組み立てていく活動を授業の中に取り入れて、明確に詳しく書く力を確実に定着させることが大切です。

#### 【目的に応じて複数の文章等を選んで読む】

「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」ことに課題が見られました。複数の本を比べて読む指導に当たっては、低学年から単元計画に意図的に設定して、主体的に読みを広げる指導が必要です。高学年では、書き手によって人物の描写や事実の捉え方が異なる伝記を取り上げ、自分の経験や考えなどと比べて見方を広げる学習経験を重ねることが大切です。

### 質問紙調査から<国語の学習について>

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた児童が全国を11ポイント、「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている」と答えた児童が全国を12ポイント上回っています。これらの割合が高いことから、国語科の学習で学んだことを他教科に生かしながら、思考・判断・表現する意識をもって学習に取り組んでいることがうかがえます。

## 中学校国語について

### 国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国を2ポイント程度上回る平均正答率を示しています。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」出題において、全国より13ポイント上回る結果となっており、昨年度の課題であった古典指導の成果が表れています。一方、「書くこと」の「表記や語句、叙述の仕方を確かめる」に課題が見られますので、今後の指導の充実が求められます。

#### 【表記や語句、叙述の仕方を推敲する】

「書くこと」の「書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする」ことに課題が見られました。

推敲の際には、表記や語句、文や段落の接続の関係、効果的な説明や具体例について検討する学習活動が効果的です。書き上げて完成ではなく、読み手の立場に立って書いた文章を読み返し、分かりやすく伝える文章か、確かめる場の設定が必要です。

### 国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全てにおいて全国を上回る平均正答率を示しています。特に「話すこと・聞くこと」では「全体と部分との関係に注意して相手の反応を見ながら話す」出題において、全国より8ポイント上回る結果となっています。「目的に応じて文章の内容を読み取り、その内容を整理して書く」ことに課題が見られますので、文章の構成や展開に着目した指導の充実が求められます。

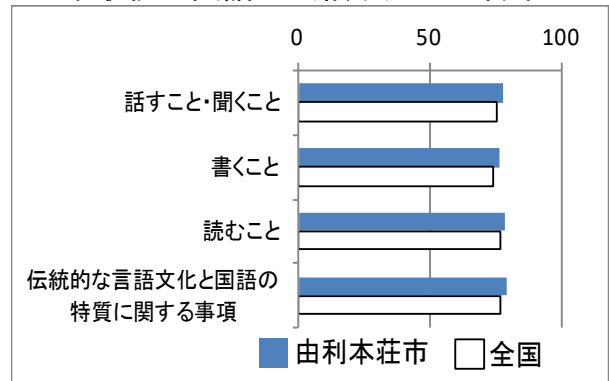
#### 【目的に応じて文章の内容を読み取る】

「文章の構成や展開に着目しながら、目的に応じて文章を読み、内容を的確に捉えてまとめる」ことに課題が見られました。目的に応じて文章の内容を読み取るためには、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりした上で文章全体における役割を考えるなど、目的に応じて段階的に読む学習活動が求められます。

### 質問紙調査から<国語の学習について>

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた生徒が全国を9ポイント、「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている」と答えた生徒が全国を19ポイント上回るなど、小学校同様に他教科に生きる国語の授業実践が行われていることがうかがえます。今後は、新聞を「ほとんど、または全く読まない」生徒が6割いる状況を踏まえ、新聞を題材にした「読むこと」の学習や、考えを新聞にまとめて発信する「書くこと」の指導を充実させることが大切です。

### <中学校 国語A（領域）の正答率>

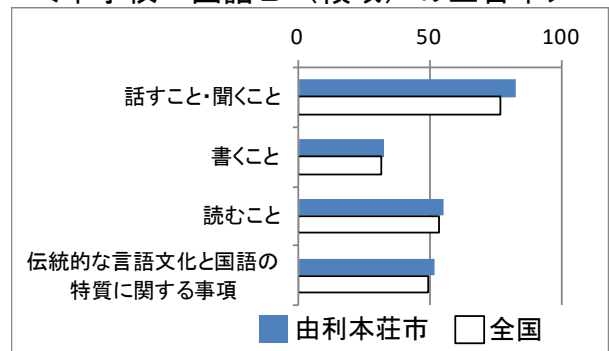


#### 【文の成分の順序や照応の理解】

「文の中の主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりする」ことに課題が見られました。

慣用句等の言葉の意味や使い方を理解するとともに、伝えたいことを適切に表現するための語順や主語と述語の照応を正しく理解する指導が求められます。「書くこと」の学習との関連を図りながら推敲の観点として確認する学習活動が有効です。

### <中学校 国語B（領域）の正答率>



#### 【登場人物の言動の意味を考える】

「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え内容の理解に役立てる」ことに課題が見られました。文学的な文章を読む際には、登場人物の言動や地の文の叙述などを整理して、場面や人物の設定についてまとめる学習活動を取り入れるなど、文章の理解を深める学習活動が効果的です。

## 小学校算数について

### 算数A「主として知識に関する問題」の結果

平均正答率は、全国平均に比べ、やや高い数値を示しています。領域毎に見ると、図形や数量関係においては全国平均を若干下回っており、知識や技能のより確かな定着が求められます。

今後の指導にあたっては、課題を設定して学び合う問題解決的な授業スタイルを継続しつつ、特に授業の後段、まとめ・評価・振り返りの意義を明確にすることで、より主体的な問題解決となるよう工夫する必要があります。

#### 【円周率の意味】

円周の直径に対する割合が円周率であることの理解が不十分であると考えられます。円周や直径の長さを実際に測定して円周の直径に対する割合を調べる活動を設定し、円周の長さが直径の長さの何倍になるかについて見通しをもたせることが必要です。その上で、「円周の長さ÷直径の長さ」の計算結果を整理し、いつでも円周の長さが直径の長さの3.14倍になっていることに気付かせていくことが大切です。

### 算数B「主として活用に関する問題」の結果

全ての領域において、平均正答率は全国平均よりも高い数値を示していますが、設問毎に見ると、全国平均を下回っている問題が少なくありません。

今後の指導にあたっては、他者説明を行ったり誤答を取り上げたりする活動を一層充実させていく中で「見方・考え方」を働かせ、根拠を明らかにしながら筋道立てて考察して適切に判断したり、解釈・表現したりする力を伸ばしていくことが望まれます。

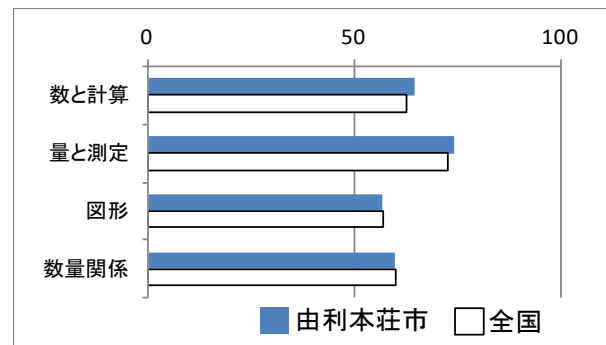
#### 【考え方を解釈し、それを適用して判断する】

問題場面を捉えた上で他者の考え方を解釈し、それをもとにして筋道立てて考察したり説明したりすることは、継続課題と言えます。未完成の考えや誤答を取り上げて学び合ったり、他者の考えや説明について吟味したりする活動を通して、新たに学んだ方法や考え方を、類似した問題や他の場面等で適用することを経験させ、その有用性を実感させていくことが大切です。

### 質問紙調査から〈算数の学習について〉

算数の学習の仕方については、全ての項目において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計が、全国の数値を上回っています。「新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」においては、全県の数値をも上回っており、算数に対する知的好奇心や意欲は育ってきていると言えます。また、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」の割合はいずれも90%を超える高い数値を示しています。児童の実態を十分に活かしながら、主体的・対話的で深い学びの成立を目指しつつ、確かな定着と思考力等の伸長を意識した授業づくりが望まれます。

### 〈小学校 算数A（領域）の正答率〉

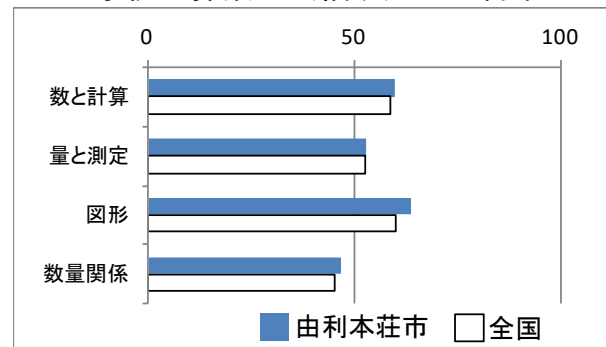


#### 【直径の長さとおの周の長さの関係】

いくつかの円について、直径の長さを2倍、3倍…にしたとき、円周の長さがどうなっているかを、実際にそれらの長さを測定し、表に整理するなどして考察するなどの作業的・体験的な活動を取り入れ、直径の長さとおの周の長さの関係についての理解が、実感を持ったものとなるようにすることが必要です。

このような活動は、円周率の理解を深めることにもつながります。

### 〈小学校 算数B（領域）の正答率〉



#### 【棒グラフと帯グラフを読み取り、判断する】

目的に応じてグラフをつくり、グラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりする活動を充実させる必要があります。そのような活動を通して、「人数は少ないが、割合は大きい」などと、二つのグラフから読み取ることができる情報を関連付けて考察し、判断することができるようにすることが大切です。

## 中学校数学について

### 数学A「主として知識に関する問題」の結果

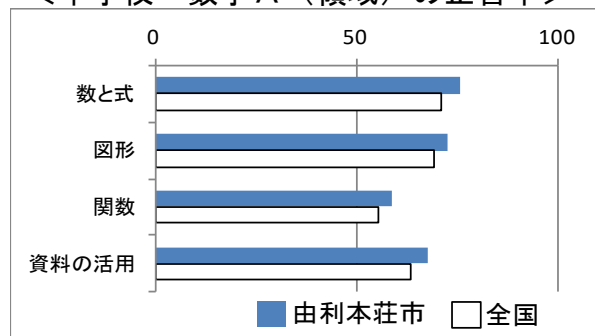
平均正答率を領域ごとに見ると、4領域全てにおいて、全国平均よりも高い数値を示しています。設問毎に見ると、およそ半数が全国平均を上回っており、基本的な知識や技能は概ね身につけていることがうかがえます。

今後の指導にあたっては、知識や技能の具体的な活用場面を設定してその有用性を実感させるとともに、意味理解を伴った定着を図っていくことが必要です。

#### 【回転移動した図形をかくこと】

図形を紙で作って実際に移動させたり、コンピュータを利用して移動させたりするなどして、図形の平行移動、対称移動、回転移動を視覚的に捉える活動を取り入れることが必要です。また、移動前と移動後の図形を考察する際には、実際に図形を折り返したり、コンパスで円を描いたりするなど、対称の軸、回転の中心、回転の方向や角などを明確にすることが大切です。

### <中学校 数学A（領域）の正答率>



#### 【証明の必要性と意味の理解】

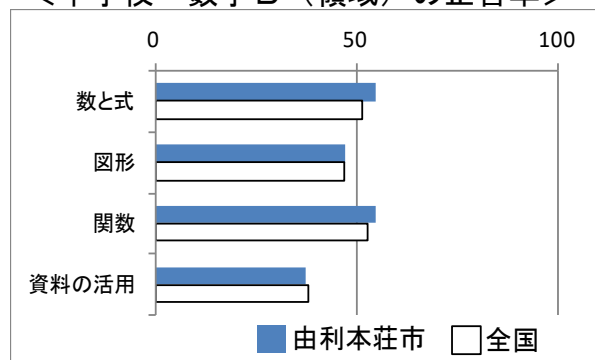
具体的な数値で確かめながら、ある事柄が成り立つことを予想する活動は必須ですが、その活動に加えて、「すべての場合について調べつくすことはできない」ということを実感する場面を設定することが必要です。帰納的に調べていくことと演繹的に推論していくことの違いを確認することで、証明の必要性と意味についての理解を深めていくことが大切です。

### 数学B「主として活用に関する問題」の結果

平均正答率は、全国をやや上回っていますが、資料の活用の領域では平均正答率が伸び悩んでおり、課題であると言えます。

今後の指導にあたっては、既習の活用を意識させていくとともに、根拠を明らかにして説明する活動の一層の充実を図り、他者説明を取り入れたり、誤答を取り上げたりすることを通して、数学的な見方・考え方を働かせる深い学びとなるような授業を積み重ねていくことが必要です。

### <中学校 数学B（領域）の正答率>



#### 【問題解決の方法を数学的に説明すること】

説明し伝え合う活動を設定する際には、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を丁寧に確認することが大切です。また、問題解決の方法を振り返る場面を設定し、自他の方法を比較検討する活動を取り入れ、価値付けていくことが必要です。

#### 【必要な情報を選択し、的確に処理すること】

基準量や比較量を捉えることについては、継続課題と言えます。事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、指導することが必要です。その際、数直線や比などを活用して、基準量・比較量・割合を捉え、関係を的確に式に表したり、割合を百分率や歩合を用いて表現したりすることを通して理解を深めていくことが大切です。

### 質問紙調査から<数学の学習について>

数学の学習に関する質問に対する回答は、11項目中9項目において、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の合計が、全国や全県の数値を上回っており、情意面からは、望ましい態度が育っていることが伺えます。「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」の項目では、全国を20ポイント、全県を5ポイント程度上回っており、数学の有用性を十分に実感できていると言えます。また、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」、「数学ができるようになりたいと思う」などの項目では、90%を超える高い数値を示しており、板書と関連させたノート指導や、課題を設定して学び合う授業スタイルを定着させてきた成果であると考えられますので、これまでの授業づくりを土台とし、深い学びに焦点を当ててブラッシュアップしていくことが望まれます。

## 小学校理科について

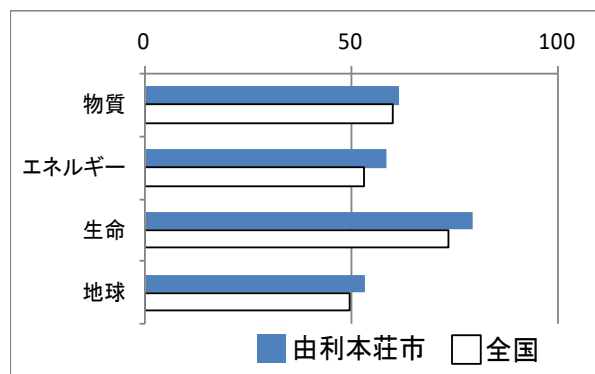
領域ごとの調査結果を比べると、4領域とも全国より高い平均正答率を示しています。中でも、「エネルギー」「生命」領域において顕著な傾向が見られます。特に、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用する問題や、知識を問う問題において高い正答率を示しています。

今後の指導に当たっては、児童一人一人の技能の確実な習得と、観察・実験の結果を分析・改善する力の育成を図る必要があります。

### 【器具等の適切な操作方法の習得】

操作技能の向上のためには、児童が対象や目的に応じて意図的に操作できるようにすることが必要です。そのためには、一人一人が器具等を操作して取り組む機会を保障することが大切です。また、手順だけではなく、操作の意味を理解した上で取り組むことができるように、操作の意図を確実におさえる必要があります。

## <小学校 理科（領域）の正答率>



### 【結果を考察し表現する力の育成】

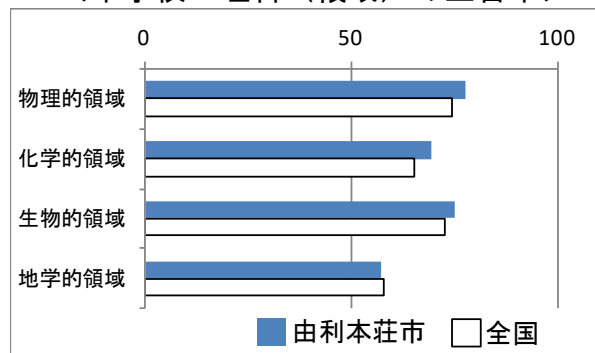
結果を一覧にするなどして、傾向を明らかにしたり、個人で考察する場やグループ・全体などで検討する場を適切に取り入れたりすることを継続する必要があります。また、学び合いを通して友達の考えのよさや上手な表現などに触れながら、より妥当な考えをつくりだす経験を積み重ねることができる授業づくりが求められます。

## 中学校理科について

領域ごとの調査結果を比べると、3領域で全国より高い平均正答率を示しましたが、「地学」領域は全国と同程度でした。特に、「物理」領域のオームの法則を使って抵抗値を求める問題や、「化学」領域の濃度が異なる食塩水のうち特定の質量%濃度のものを指摘する問題で、全国よりも高い正答率を示しています。

今後の指導に当たっては、知識の確実な定着と、観察・実験を計画したり結果を分析したりする力の育成を図る必要があります。

## <中学校 理科（領域）の正答率>



### 【知識・技能のより確実な習得】

「太平洋高気圧の特徴」「神経系の働き」「S波・主要動」等の知識を問う問題の正答率が低くなっています。関連する用語と比較して掲示したり、考察やまとめの場面で意識的に使用することができるように声かけをしたりすることが大切です。また、用語とその意味の理解の程度を確認する場を適切に設定することも求められます。

### 【条件を制御して観察・実験を構想する力】

ガスバーナーの空気量を変えて炎の色とススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘する問題などの正答率が伸び悩んでいます。小学校の段階から、変える条件・変えない条件をノートやシートに整理する、注目すべき点を明確にするなど、児童生徒が主体的に問題解決に取り組む学習を継続することが重要です。

## 質問紙調査から<理科の学習について>

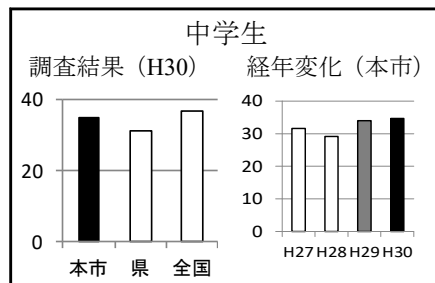
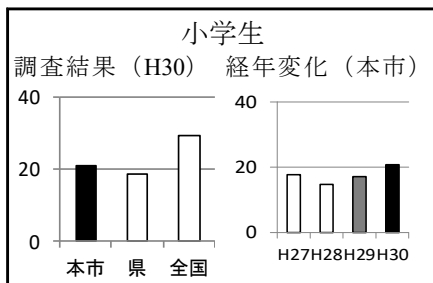
「理科の勉強が好き」と回答している割合が、全国に比べて小学生では10ポイント、中学生では8ポイント高くなっています。「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」では、全国に比べて小学生が20ポイント、中学生が22ポイント上回っています。また、「理科で学習したことは社会に出たときに役立つと思う」については、全国に比べて小学生が15ポイント、中学生が20ポイント高くなっています。各校において、児童生徒の問いを生かした授業づくりをしたり、学習内容と日常生活との関連を図ったりなどの工夫がなされていることがうかがえます。

## 児童生徒質問紙について

質問紙調査は、小学校62項目、中学校59項目あり、学習習慣、生活習慣等幅広く質問されています。その中で注目すべき項目や今後に生かせる項目について掲載しました。なお、この調査では本市の小学校6年生596名、中学校3年生579名が回答しています。

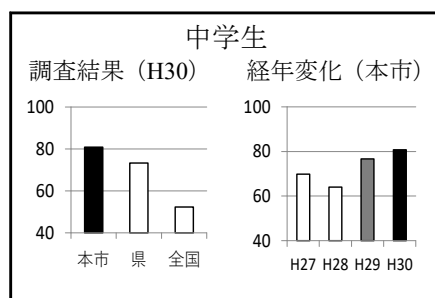
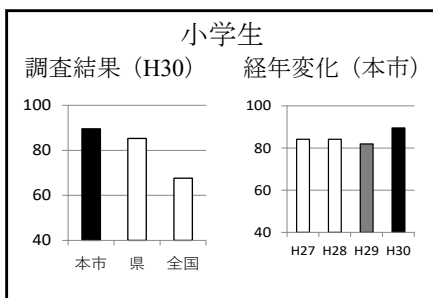
### 1 【学校の授業時間以外に、普通日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】 質問番号（14） 《2時間以上の割合（3時間以上を含む）》

学校以外で、平日2時間以上勉強している小学生の割合は、小学生が20.8%、中学生が34.7%で、県平均を上回っているものの全国平均を下回る結果となっています。また、質問番号（16）の結果から、通塾率が県や全国と比較して極めて低いこと、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」割合は、県平均とほぼ同じですが、小学校は全国平均を上回っていることが分かります。これらの結果から、本市の児童生徒は帰宅後、自由に使える時間が比較的多いことが推察されます。一律に長時間家庭学習をすることを求めるのではなく、帰宅後の時間の有効活用について考えさせていく必要があると考えます。



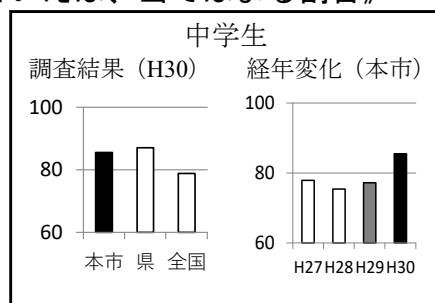
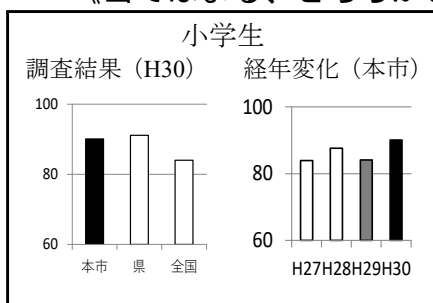
### 2 【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】 質問番号（10） 《している、どちらかといえばしている割合》

家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学生が89.6%、中学生は80.8%で、小学生は前年度比+7.6ポイント、中学生は+4.2ポイントでした。小・中とも県平均を若干、全国平均を大きく上回る結果となりました。家で宿題や授業の予習・復習をしている児童生徒の割合も高く、自分に必要な学習内容を考えて、主体的に学習する習慣が身に付いていると言えます。児童生徒が、与えられた課題だけでなく、自ら疑問に思ったことやさらに深く学習してみたいことなどにも取り組むことができるよう、家庭学習に関しても小中連携を意識し、個に応じた指導・支援の充実を図っていくことが大切であると考えます。



### 3 【自分には、よいところがあると思いますか】 質問番号（1） 《当てはまる、どちらかといえば、当てはまる割合》

小学生の90.1%、中学生の85.5%が「自分にはよいところがあると思う」と回答しています。ともに県平均はやや下回ったものの、全国と比較すると高い割合を示しています。質問番号（2）の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問にも、90%以上の児童生徒が「そう思う」と回答しています。



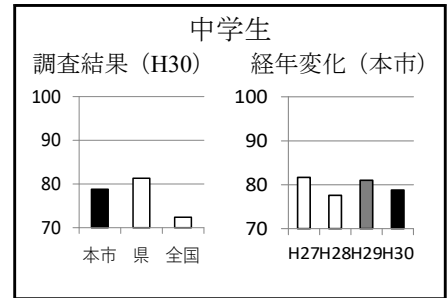
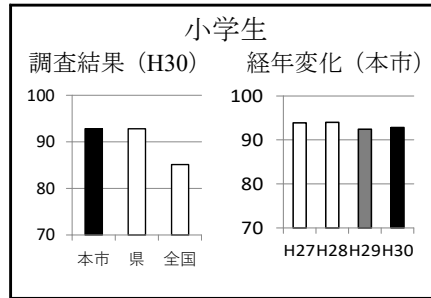
これは、各校における「生徒指導の三機能を生かした授業改善」「道徳教育の充実」「一人一人に寄り添った支援の充実」に向けた取組が具現化されてきた結果と考えられます。引き続き、児童生徒の自尊感情を高める支援を継続していきたいと考えます。

#### 4 【将来の夢や目標をもっていますか】

質問番号 (3)

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまる割合》

小学生の 92.8%、中学生の 78.8%が将来の夢や目標をもっています。小学生は前年度比で微増、中学生は - 2.2 ポイントで、全国平均を大きく上回っているものの、県平均を下回る結果となりました。教育活動全般において、一人一人の個性や能力を發揮できる場や機会を設定し、成功体験を重ねることで、自己肯定感や自己有用感を高めることができるようになると思われます。そのような経験は、児童生徒が自分のよさを再認識し、自信をもつことにつながり、結果として、将来の夢や目標に向かって努力する人間になると考えます。また、体験先の選定や活動期間及び内容の見直しを含め、職場体験の在り方そのものを見直すとともに、引き続き、小中連携を意識した系統的・継続的なキャリア教育の充実に努めていくことが必要であると考えます。

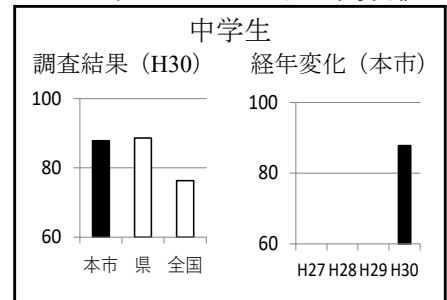
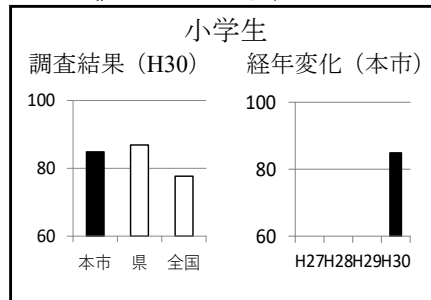


#### 5 【学級の友達と (生徒) の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

質問番号 (小学校 : 57、中学校 : 54)

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまるの割合》

「学校の友達と (生徒) の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と答えた児童生徒の割合は、小学校が 84.9%、中学校が 87.8%でした。類似する昨年度の質問「学級やグループの中で自分たち



で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか」に対する回答と比較して、ほぼ同じ割合を示す結果となりました。県平均をわずかに下回るものの全国平均を大きく上回っています。

これまで各校で取り組んできた「授業改善」や「教科をつなぐ言語活動の充実」の成果と捉えることができると思われます。今後も、授業を「主体的・対話的で深い学び」という視点で見直し、児童生徒がこれからの時代を力強く生き抜くために必要とされる資質・能力の育成に市全体として取り組んでいくことが望まれます。

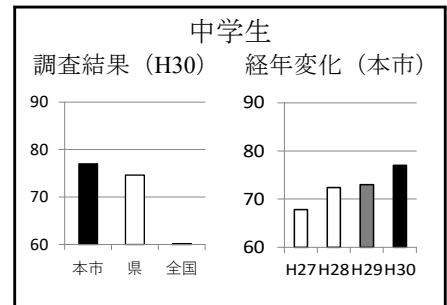
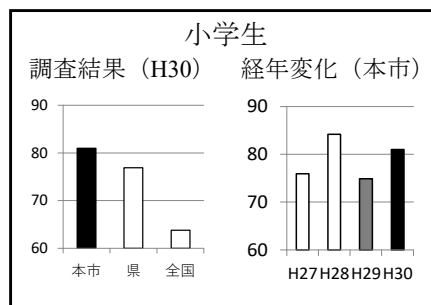
#### 6 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

質問番号 (21)

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまる割合》

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた児童の割合は 81%、生徒の割合は 77%で、県平均をやや上回る結果となりました。

昨年度と比較して、小学校が 6 ポイント、中学校が 4 ポイントアップしました。また、質問 (22)



「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」、質問 (23) 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」に対する肯定的回答の割合も、県や全国の平均を大きく上回っていることから、コミュニティ・スクールを基盤とした「ふるさと教育」及び「キャリア教育」の充実が図られているものと推察されます。

今後も地域社会との連携・協働を密にし、地域のよさを知り、ふるさと「由利本荘市」の未来を担うたくましい児童生徒の育成に努めていきたいと考えます。